



虹の丘キャンパス

三島学園報

VOL.4
2005.6

- 巻頭言「百年・五十年・四十年」
- 生活美術学科 創設40周年を迎えて
- 「時の蘇生」 柿の木プロジェクト ～平和を想う日 柿Peace～
- 第23回 全国高等学校女子ソフトボール選抜大会



学校法人 三島学園

百年・五十年・四十年

学校法人 三島学園 理事長
池上 雄作

今年はいんシュタインが光量子説、ブラウン運動や特殊相対性理論を提唱してから丁度100年にあたり、近代科学の基本原理の誕生を記念するために、国際純正応用物理学連合は今年を「世界物理年」と定めた。物理や化学の講義では、光が粒子性をもつという1905年の仮説は避けられない重要性をもって、これだけでも20世紀の最大の発見と評価される。アインシュタインは1922（大正11）年11月2日に仙台を訪れ、講演して大歓迎を受けた。当時の漫画家岡本一平が彼の人間味を事細かに書き記し、土井晩翠は「アインシュタイン賛歌」を贈っている。前世紀の科学技術の革命的な進歩の発端がこの基本原理の発見にあったことを顧みつつ、今年の世界を通じて100周年を記念すべきであろう。

翻って本学園を見ると、アインシュタインと直接的に関わりはないが、この100年とともに三島学園は歩んできた。5年前の平成12年には百周年記念事業を行い、学園の一世紀を、とくに20世紀後半の社会の変貌とともに発展してきたことを振り返ったのだった。そして、今年が幼稚園が誕生して50周年に、また、生活美術学科が誕生して40周年にあたる。前号に書いたように、昨年は虹の丘移転の30周年であった。

三島夫妻は1905年幼児教育の会として「天真会」を発足させて幼児教育に非常な関心を寄せていたが、生前幼稚園の開園の実現を見ることができず、50年後の1955（昭和30）年、佐藤允理事長のもとで三島学園女子短期大学附属真澄幼稚

園として開園した。当時、前年に寄宿舎が移転した向山地区には幼稚園がないために地域の要望も強く、また学園としても幼児教育に強い関心を持っていた。1987年に「ますみ幼稚園」として独立し、一方、虹の丘地区にも1969年に「丸田山幼稚園」を新設したが、これは1998年に廃止された。昨年幼稚園に隣接して保育園が開園し、合わせて120人あまりの園児で向山地区は賑わっている。幼稚園の卒園者は4700人にのぼる。幼保一体が政治の課題になっているときではあるが、なによりも、子どもの健全な育成と地域に親しまれることをモットーとしてきた50年を大切にしたい。

1958年に三島学園女子大学が開学した頃から我が国の高学歴志向が高まり、家政学部に生活美術学科が開設された1965年には大学・短大の進学率が24.5%に達していた。戦後20年を経て文化への憧憬心がいよいよ高まりを見せ、大学として文化への貢献を強く認識し、一方で美術教育の大学が近隣になかったことが学科新設を促したとされている。男女共学制を取り入れて1987年に変更した校名にも、本学園としてのその指向が鮮明に表されている。生活美術学科はこれまでに1434人の卒業生を送り出し、広い分野で活躍している。

大学から幼稚園・保育園まで、多彩な教育機能を持つ学園として、100年、50年、40年のそれぞれ独自の歴史ではあるが、広い視野から振り返りながら、とくに基礎教育の重要性を念頭に、学園が抱えている問題に取り組みたいと思っている。

新潟県中越地震街頭募金活動

昨年10月に起きた新潟県中越地震災害について、高校生生徒会役員を中心にJRCの生徒も加わり、募金活動を行った。11月4日から25日までは校内で、11月13日から21日までは地下鉄泉中央駅周辺で街頭募金を実施した。校内では生徒への呼びかけを行い、街頭では放課後の時間を使い、土・日曜日は朝から夕方まで計6日間募金活動を行った。生徒会役員が交代で街頭に立ち、多少疲れを感じながらも、道行く人々に励まされ、大きな声で募金をお願いした。また、20日には仙台スタジアムでベガルタ仙台的試合があったお陰で、1日で40万円のお金が集まり、予想を超える成果に生徒達も疲れが吹き飛んだ。その結果、校内では202,174円、街頭では802,323円の合計1,004,497円が集まり、11月26日生徒会会長以下4名で河北新報社を訪問し、義援金として寄託した。



Information

●大学・短大「オープンキャンパス2005」

○日時／平成17年7月31日(日)、8月12日(金)9:30～ ○内容／体験学習・キャンパス見学・受験相談コーナー ○お問合せ／東北生活文化大学・短期大学部 入試課 TEL:272-7521

●大学・生活美術学科「創設40周年記念講演」

○演題／「村田朋泰 その仕事」 ○日時／平成17年7月19日(火)13:00～15:00
○会場／三島学園 百周年記念ホール ○関連事業／撮影セット展示・上映会・トークショー(7月12日(火)～18日(月・祝)、於せんだいメディアテーク) ○お問合せ／東北生活文化大学・生活美術学科 TEL:272-7519

●大学・生活美術学科「高校生のためのデッサンセミナー」

○日時／平成17年8月1日(月)～8日(月) ○内容／基礎デッサンの実技講習
○お問合せ／東北生活文化大学・生活美術学科 TEL:272-7519

●高校「第1回学校説明会」

○日時／平成17年7月16日(土)9:30～13:00 ○会場／東北生活文化大学高等学校

●高校「第6回中学生美術コンクール」作品募集

○課題テーマ／「顔」～カオ～ ○作品サイズ／B3サイズ ○表現技法／平面(技法・画材は自由) ○受付期間／平成17年8月24日(水)～29日(月) ○お問合せ／中学生美術コンクール事務局 TEL:272-7522

●学園ホームページリニューアル

○平成17年5月から学園のホームページがリニューアルされました。お気軽にアクセスしてください。○[URL] <http://www.mishima.ac.jp>

生活美術学科 創設40周年を迎えて

本年度、大学生生活美術学科は1965年の創設以来40周年を迎える。

時代の変遷やニーズと共にいくつかの変化もあったが、生活と美の融合、獨創性豊かな創造者の育成を目指すという理念は、揺るぎなく多くの素晴らしい先生方により築かれてきた。

現在から将来へと、理念を具現、教授する現教員の指命は重大である。そこで、この度専任教員のプロフィールを、研究成果としての作品や論文と共に紹介する冊子を発行する事となった。7月には本学とメディアテークで、映像作家の村田朋康氏の講演を予定している。

今後、社会的にも生活美術学科の役割と重要性は、ますます大きなものになると考えられる。この40周年を更なる発展の礎に出来ればと思っている。
(大学・生活美術学科長 林 範親)



「時の蘇生」柿の木プロジェクト ~平和を想う日 柿Peace~

「時の蘇生」柿の木プロジェクトは、今から58年前の1945年8月29日、長崎で被爆した柿の木から、樹木医の海老沼正幸博士が蘇生させた二世の苗木を、現代アーティストである宮島達男氏が世界中に植樹し、育て、そして平和について今一度考えてみようという願いから生まれたアートプロジェクトである。高校では、平成12年10月20日の生徒会総会においてこのプロジェクトに参加することが決議された。翌年2月27日には平和を願って正門の近くに被爆柿の木二世を植樹した。しかしながら私達の願いとは反対に、世界各地で飢えのために命を落としたり、9・11に衝撃的なテロが起きるなど次から次へと悲惨な光景を目にすることになった。そこで、本校では新たな企画として、生徒会が中心となり柿の木の植樹を行った2月27日を「平和を想う日～柿Peace～」と制定した。昨年度の平和を想う日のイベントでは、フリーランスジャーナリスト志葉玲氏の講演「イラク戦争と私たち～平和について考えよう～」を開催した。

植樹から10年後の2011年には収穫祭を行う。柿の木の成長とともに、平和への想いは生徒たちの中で着実に芽生えてきている。



第23回 全国高等学校女子ソフトボール選抜大会

昨年度、宮城県の新人大会で優勝し、本校ソフトボール部創部以来初の全国大会出場となったこの大会だが、全国の壁はまだ厚く、初戦を突破することができなかった。しかし、選手たちは帰郷してから気落ちするどころか逆に自信をつけ、今や顔つきや雰囲気にも風格が漂うようになってきた。選手たちの目標はただ一つ「全国制覇」である。この目標のもと一致団結し、インターハイに向け日々の練習に一心不乱に打ち込んでいる。



2005年愛知万博床モザイクプロジェクト参加

大学生生活美術学科の森敏美教授の呼びかけにより本学園学生、生徒、並びに卒業生、一般市民など合計約120名が標記のプロジェクトに参加した。この催しは万博の市民プロジェクトの一環であり、森教授の所属するモザイク会議によって企画されたものである。

参加者は学生から公募した原画を基に本学において床モザイクを制作。45×45cmのパネル4枚を1ユニットとし合計20ユニットの作品が会期中(本年3月26日～9月26日)万博瀬戸会場内の海上広場に設置されている。「生々流転」というテーマの下に制作されたモザイクは、参加人数を反映して多種多様な表現がなされていて、会場に訪れた一般市民の目を楽しませている。



学園歴史探訪

学園の創設者・三島駒治

学園の創設者三島駒治先生は明治3(1870)年、岩手県江刺郡米里村人首(現江刺市)に三島長之助・ヨシ夫妻の長男として誕生した。早くに父を亡くされ、祖父のもとで地元の小学校に入学、後に仙台に出て漢学者国分平蔵に学び、さらに上京して東京法学院(現中央大学)、明治法律学校(現明治大学)、和仏法律学校(現法政大学)で研鑽をつまめた。卒業後一時東京法学院に勤務したが、東北における法律学校の必要性を痛感し、明治33(1900)年仙台に転居、東二番丁(現クリスロード)に東北法律学校を開設した。学校法人三島学園の記念すべきスタートであった。



大学・家政学科

家政学科における4年間の勉学の集大成というべき課題研究。その成果を発表する「課題研究発表会」が、平成17年1月31日と2月1日の両日、本学園の百周年記念ホールにて行われた。56名による45題の研究テーマは、栄養学、保健学、生活情報学、教育心理学、言語と生活、衣生活研究、ポリマーケミストリー、健康社会学、染色学、被服材料学、被服整理学、食物学、健康医学の13分野にわたった。熱のこもった発表に質疑応答も活発に行われた。また卒業式当日、平成17年3月15日に、本大学5号館にて行われた「課題研究展」は、制作・研究の成果を作品展示、ポスターセッションの形式で発表するもので、父兄をはじめ多くの方々にご覧いただいた。



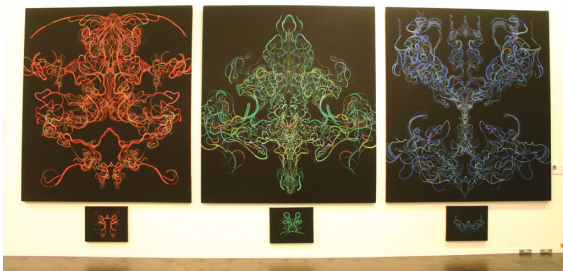
短大

平成17年2月25日～27日、イズミティ21を会場として平成16年度「課題研究展示発表会」が行われた。この課題研究は卒業学年の学生たちが1年間にわたり、自分の興味のある研究テーマに関して、より深く自主的に追求していき、作品や研究論文の形でまとめあげたものである。今回は、染色、洋裁、西洋文化研究、情報造形、マルチメディア情報学、シュガークラフト、健康社会学の専門分野を選択した32人の研究成果が展示された。学生が取り組んできた様々な作品や研究概要を直接目にする事が出来る絶好の機会ということもあり、在学生や父兄の他、多くの方が会場を訪れた。また、発表会初日の25日には情報造形をはじめとした3分野による口頭発表会も開催され、発表を行った学生と出席者との間で活発な質疑応答が展開された。



大学・生活美術学科

第37回の「卒業研究課題制作展」が平成17年2月11日～16日、せんだいメディアテーク5Fギャラリーにて開催され、2千人を超える来場者を集めた。出品者は45名で、作品は絵画、彫刻、工芸、デザイン、現代美術など合計52点。既存の表現形式にとらわれない自由で斬新な発想の作品が多く、様々な表現分野を幅広く学ぶことのできる本学科の特長が色濃く反映した展示となった。また最近では、漫画、ドールクラフト、CG、映像などを取り入れた新しい感性の作品も増えている。



高校

平成17年2月15日～20日、宮城県美術館県民ギャラリーにて第2回東北生活文化大学高等学校美術コース「卒業制作展」が開催された。制作展の主役である平成16年度卒業の美術コース第2期生は、「三島学園女子高等学校」の最期の入学生である。生徒たちは入学した時点で「女の園」ゆえに、かえって男子を意識せずに高校生活を楽しんできた。しかし後輩たちは男女共学校として女子を意識した日々を送っている。そこで、ウーマンパワーを呼び覚まし、女子学年の有終の美を飾り、後輩たちの記憶にとどめるため、「女子最期の戦い」をテーマに選び、高校3年間の集大成として今までに取り組んだ作品を発表する機会を設けた。また、今回は2年生も自主的に企画したプレ卒展を同会場で行い、先輩たちの活動を影で支えながら、大きな刺激を受けていた。先輩後輩間の繋がりも深まり、卒業制作展の伝統を作っていくために、よい流れができた。



学生・生徒の活躍

大学

●第55回モダンアート展

【入選】

宍戸 誠(生活美術学科4年)
本田 卓子(生活美術学科3年)

●第2回全日本年賀状大賞コンクール

【版画部門/入選】

本田 卓子(生活美術学科3年)

●第10回まほろばの風景「セツ森展」

【一般の部 絵画/審査員特別賞】

竹内 功(生活美術学科4年)

【一般の部 絵画/優秀賞】

加藤 優一(生活美術学科4年)

●齋藤報恩会自然史博物館ポスター図案募集

【採用】

森本 理絵(生活美術学科4年)

●第89回河北美術展

【彫刻/東北電力賞】

若月 亜由実(生活美術学科3年)

【洋画/入選】

太田 翔(生活美術学科4年)

竹内 功(生活美術学科4年)

●トレース技能検定

【実務技能検定協会優秀賞】

小野寺美穂子(生活美術学科4年)

【実務技能検定協会努力賞】

磯村 知江(生活美術学科4年)

高校

ソフトボール部

- 第23回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会 初出場
- 第40回宮城県高等学校選抜女子ソフトボール大会 第3位
- 第24回宮城県私立高等学校女子ソフトボール大会 優勝

バドミントン部

- 第28回宮城県私立バドミントン大会 女子団体準優勝

バレーボール部

- 仙台大学主催バレーボール縦の木大会 女子優勝

人事異動

1.平成17年度採用者(平成17年4月1日付)

○虹の丘キャンパス

佐々木裕子(大学家政学科講師) H17.1.1 梅津 隆(高校常勤講師)
 西野 徳三(大学家政学科教授) 笹野由紀子(高校常勤講師)
 伊藤 洋子(大学家政学科講師) 菅 福彦(大学事務職員,法人事務局長)H17.2.1
 寺崎 洋子(大学家政学科講師) 小野寺智美(大学事務職員,大・短図書館)
 中村 雅知(短大教授) 松山 恒博(大学事務職員,学生課)H17.5.1
 三浦 主博(短大助教授) 佐藤 百代(高校事務職員,高校図書館)H17.5.1
 阿部 陽子(短大講師) 今村 綾子(大学家政学科副手)
 伊藤 麗子(短大講師) 三浦 輝子(大学生生活美術学科副手)
 光井 正(高校教諭) 菅間 裕子(短大副手)
 高橋 陽子(高校教諭) 湯澤今日子(事務補助員,大・短図書館)

○ますみ幼稚園

鈴木 節子(教諭)
 佐藤 英恵(教諭)
 阿部ひろみ(臨時教諭)
 岡部 健(嘱託現業職員)

○ますみ保育園

佐藤 洋子(園長)
 大須賀菜緒(嘱託保育士)
 菊地かなえ(嘱託保育士)
 佐々木夏美(嘱託保育士)
 寺門 美香(嘱託保育士)
 高橋 裕子(嘱託栄養士)H17.1.1
 佐藤 恵(非常勤保育士)
 百留 良子(非常勤保育士) H17.5.1

2.平成16年度退職者

○虹の丘キャンパス

小栗 典子(高校教諭)
 小川 浩子(高校教諭)
 武田 道直(高校教諭)
 菅原 正道(大学事務職員)H16.11.30
 川村カヅエ(大学事務職員)
 船岡 泰子(短大事務職員)
 高橋 節子(高校事務職員)
 鈴木 香苗(大学生生活美術学科副手)
 菅野 裕美(大学家政学科副手)
 佐藤恵美子(高校臨時職員)

○ますみ幼稚園

斎藤 良子(幼稚園教諭)
 村山ウタ子(幼稚園教諭)
 熱海美智子(幼稚園教諭)
 岡部 健(幼稚園現業職員)

○ますみ保育園

柳 牧子(保育園,嘱託保育士)
 曾根 佐織(保育園,嘱託保育士)
 加藤 由美(保育園,嘱託保育士)
 佐藤 純子(保育園,嘱託保育士)
 宮城 佳代(保育園,非常勤保育士)

3.昇格者並びに所属変更等 (平成17年4月1日付)

短大教授 芳賀 清一(大学講師) 学生部長 佐藤 淳一
 短大教授 松尾 広(短大助教授) 入試課 千葉 卓也(学生課)H17.5.1
 短大助教授 土屋 葉子(短大講師) 会計課 阿部 寿枝(入試課)H17.5.1
 大学講師 千葉 景一(短大事務職員) 高校事務室 熊谷 武志(会計課)H17.5.1

【教職員数】

平成17年5月1日現在(単位:人)

職名	学校	校長	教諭	授論	助教授	講師	助手	非常勤講師	小計	園長	事務職員	現業職員	副手	臨時職員	小計	合計
学校別	園長	長	教	論	養護教諭	講	手	(臨時教諭)			保育士		事務補助員 嘱託保育士	警備員		
大学	1	11	5	12	5	40	74		11		6	3	20	94		
短大		5	3	5	19	32		4	1	3	1	9	41			
高校	1	39	1	5	40	86		7	2	2	3	14	100			
幼稚園	1	4				(1)	6		1			1	7			
保育園							0	1	5		11		17			
合計	3	59	9	22	5	100	198	1	27	4	22	7	61	259		

【学生・生徒・園児在籍数】

平成17年5月1日現在(単位:人)

学校別	学年	1年	2年	3年	4年	合計
大学	家政学科	71(10)	70(15)	76(12)	57(16)	274(53)
	生活美術学科	52(16)	46(10)	46(9)	53(18)	197(53)
	小計	123(26)	116(25)	122(21)	110(34)	471(106)
短大	生活学専攻	33(4)				33(4)
	子ども生活専攻	31(9)				31(9)
	トータルライフコース		24(3)			24(3)
	マルチデザインコース		22(2)			22(2)
小計	64(13)	46(5)			110(18)	
高校	普通科	279(84)	218(43)	165(27)		662(154)
	商業科	44(29)	57(47)	71(56)		172(132)
	小計	323(113)	275(90)	236(83)		834(286)
幼稚園	年少	13(7)	25(12)	21(12)		59(31)
保育園	0歳児	2(0)	22(13)	14(6)	24(15)	62(34)
	1・2歳児					
合計						1,536(475)

()男子の人数

【役員並びに評議員数調】

区分	理事	監事	評議員
男(女)	2	7(1)	19(7)

平成17年5月1日現在(単位:人)
 ○評議員のうち理事兼任者は7名

【理事会の主な議題】

平成17年1月22日(記念棟2階会議室)

- ◎大学・短大・高校の学則一部変更について
- ◎寄附行為変更について
- ◎平成17年4月人事関係について

平成17年3月12日(記念棟2階会議室)

- ◎平成16年度補正予算について
- ◎平成17年度収支予算について
- ◎寄附行為変更について
- ◎就業規則一部改正について

平成17年5月28日(記念棟2階会議室)

- ◎平成16年度学校法人計算書類について
- ◎平成16年度監査報告について

平成17年度年間主要行事予定表 (平成17年4月～平成18年3月)

月	大学・短大	高校	幼稚園	保育園
4	6. 入学式 7～8. ガイダンス 12～13. 新入生 オリエンテーションキャンプ 短大2年研修旅行 14. 前期授業開始 25. 学友会総会	8. 入学式・始業式・新任式 11. 第1回学力テスト 13～14. 新入生オリエンテーション (松島) 28. 遠足	8. 始園式 11. 入園式 18. 対面式 26. 保育参観・父母の会総会	2. 入園式・はじまりの会
5	20～21. 大美1年研修旅行	6～7. 球技大会 14. PTA総会・保護者懇談会 20. 生徒総会 21. 模擬試験	2. 子どもの日大会 13. 春の遠足 9. 身体測定 10. 歯科検診 12. 内科検診	20. 親子遠足
6	4. 後援会総会 11. 体育祭	4～6. 高校総体 13～17. 中間考査 23. 芸術鑑賞会	5. 保育参観日 8～9. 天文台見学 14,16. 動物園見学	9,16,21. 保育参観・懇談会
7	20～26. 前期試験 26. 前期授業終了 31. オープンキャンパス	15～20. 三者面談・海外研修出発 16. 第1回学校説明会 21～8/24. 夏季休業 26～30. 進学講習	9. 夏まつりバザー 20. 終園式 21. 夏休み 21～22. お泊り保育	7. 七夕まつり 23. 夏まつり
8	1～9/18. 夏季休業 1～8. 大美・高校生のための デッサンセミナー 12. オープンキャンパス 23～27. 大美2年美術鑑賞旅行	29. 第2回学力テスト 3～4. 生文祭 11. 第2回学校説明会① 17. 第2回学校説明会② 20～27. 期末考査 27. 前期終業式	9. 動物園見学 28. お月見会	15. 運動会 27. いも煮会
9	6～8. 博物館実習旅行 13～16. 大家2年研修旅行 20. 後期授業開始	3. 後期始業式 12. 体育祭 17. 私学振興大会 26. 生徒総会	2. 運動会 14. いも掘遠足 25. いも煮会・人形劇鑑賞	
10	22～23. 大学祭	12. 第3回学校説明会 15～18. 中間考査(2年) 27～30. 修学旅行(2年) 28～12/1. 中間考査(1・3年)	7. 避難訓練 11. 七五三お参り 20. お遊戯会	10. クリスマス発表会 20. もちつき会
11	19. 推薦入試	1. 一般入試 27. 平和を想う日～柿Peace～	10. 始園式	24,27. 保育参観・懇談会
12	25～1/10. 冬季休業	17. 推薦入試 25～31. 学年末考査(3年)	3. 豆まき会 21. 天文台見学	3. 豆まき会 7,9,17. 保育参観・懇談会
1	24～30. 後期試験 30. 後期授業終了	2. 賞状授与式・同窓会入会式 3. 卒業式 6～10. 学年末考査 20. 終業式	2. ひなまつり会 16. 卒園式 17. 終園式	25. 卒園式 29. 修了の会
2	3～4. 一般入試(A日程) 10～15. 大美卒業制作展 短大課題研究展示発表会			
3	4. 一般入試(B日程) 10～4/4. 春季休業 15. 学位記授与式・ 卒業証書授与式 大家課題研究展			

※学園創立記念日……10月27日

平成16年度消費収支計算書 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

● 収入 (単位:千円)

科目	予算額	決算額	差異
学生生徒等納付金	874,005	876,591	△ 2,586
手数料	22,824	24,250	△ 1,426
寄付金	40,180	43,473	△ 3,293
補助金	382,057	394,983	△ 12,926
資産運用収入	576	635	△ 59
事業収入	53,000	53,152	△ 152
雑収入	82,702	103,668	△ 20,966
帰属収入合計	1,455,344	1,496,752	△ 41,408
基本金組入額合計	△ 44,320	△ 44,414	94
消費収入の部合計	1,411,024	1,452,338	△ 41,314

● 支出 (単位:千円)

科目	予算額	決算額	差異
人件費	1,083,766	1,114,842	△ 31,076
教育研究費	349,330	349,215	115
管理経費	144,529	144,922	△ 393
借入金等利息	21,004	21,624	△ 620
資産処分差額	0	774	△ 774
徴収不能額	2,738	2,567	171
予備費	12		12
消費支出の部合計	1,601,379	1,633,944	△ 32,565
当年度消費支出超過額	190,355	181,606	
前年度繰越消費支出超過額	2,454,419	2,454,419	
翌年度繰越消費支出超過額	2,644,774	2,636,025	

平成17年度消費収支予算書 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

● 収入 (単位:千円)

科目	本年度予算額	前年度補正予算額	差異
学生生徒等納付金	950,393	874,005	76,388
手数料	22,190	22,824	△ 634
寄付金	0	40,180	△ 40,180
補助金	416,770	382,057	34,713
資産運用収入	1,250	576	674
事業収入	61,770	53,000	8,770
雑収入	25,120	82,702	△ 57,582
帰属収入合計	1,477,493	1,455,344	22,149
基本金組入額合計	△ 44,320	△ 44,320	0
消費収入の部合計	1,433,173	1,411,024	22,149

● 支出 (単位:千円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異
人件費	1,020,190	1,083,766	△ 63,576
教育研究費	349,540	347,412	2,128
管理経費	136,380	141,459	△ 5,079
借入金等利息	21,420	21,004	416
徴収不能額	3,000	2,738	262
予備費	5,000	5,000	0
消費支出の部合計	1,535,530	1,601,379	△ 65,849
当年度消費支出超過額	102,357	190,355	
前年度繰越消費支出超過額	2,644,774	2,454,419	
翌年度繰越消費支出超過額	2,747,131	2,644,774	

東北生活文化大学

家政学科

家政学科に家政学専攻と健康栄養学専攻の2専攻を設置して2年目になり、学科全体として、各専攻としての新体制が整ってきた。平成17年1月には佐々木裕子講師、4月には西野徳三教授、伊藤洋子講師、寺崎洋子講師、今村綾子副手の5名の先生方をお迎えし、今後一層の学科の発展と教育体制の充実が望まれる。

平成16年10月、大学祭では、これまでの出店・展示に加え、恒例となっているファッションショーに多くの学生がデザイナーや運営スタッフとして参加した。平成16年度第2回目となる学科セミナーが11月に行われた。健康栄養学専攻の学生を対象に、東京農業大学助教授の君羅満先生の講演が行われた。特に平成16年度から、家政学科では、セミナーや資格取得のための受験対策講座などを積極的にを行っている。平成17年1月、課題研究発表会が百周年記念棟で2日間にわたって行われた。3月、課題研究展が5号館で開催された。課題研究での成果をポスターや展示の形式で発表し、多くの保護者にもご覧いただいた。

生活美術学科

第37回卒業制作展を平成17年2月11日～16日まで、せんだいメディアテークで開催。2千名を超える市民の来場を得、盛会好評のうちに終了し48名の卒業生を送り出した。4月には52名の新入生を、更に3年の任期を終え退職された鈴木(旧姓佐々木)香苗さんにかわり、新副手に三浦輝子さんを迎え、新年度をスタートした。

近年、卒業生・在学生の活躍は目覚ましいものがある。卒業生の峰岡順さんが「水鏡2005・I」で第55回モダンアート展最高賞の協会賞を受賞。また、第69回河北美術展では、卒業生・在学生とも多数入選及び入賞した。洋画部門では卒業生の斎藤岳志さんが「無題」で福島県知事賞、同斎藤正和さんが「ELEMENTS-1」で宮城県芸協賞を受賞。彫刻部門では、3年の若月亜由実さんが「そしてフォームは歌った」で東北電力賞、卒業生の寺野完さんが「寄り道」で東北放送賞を受賞した。その他入選者は洋画部門が9名、日本画部門が1名、彫刻部門1名、計11名で、本学科の実力をいかに発揮した。

東北生活文化大学短期大学部

短大は今年度から生活学専攻、子ども生活専攻の2専攻制が導入された。生活学専攻では生活科学コース、生活情報コース、生活デザインコースの3コース制が敷かれている。一方、県内唯一の男女共学制の保育士養成施設である子ども生活専攻では、生活文化や造形技術の素養のある人間性豊かな保育士の養成を目指している。今年度は生活学専攻33名、子ども生活専攻31名の新入生を迎え、新スタートを切った。

平成16年度後半の主な行事を報告する。12月15日には成人祝賀行事として、ホセ・ルイス・バルボサ氏と岩崎わかな氏による「アルノHOTコンサート」が百周年記念ホールで開催され、学生達にとって貴重な異文化体験となった。2月25日～27日には短大2年間の集大成として課題研究展示発表会がイズミテ21で実施され、3月15日には33名の卒業生を社会に送り出すことができた。スタッフの異動は、保育士養成施設立ち上げに伴い、中村雅知教授、三浦主博助教授、伊藤麗子講師、阿部陽子講師の4名が加わった。

ますみ幼稚園

昭和30年に開園した幼稚園は、今年50周年を迎える。その間、約4,000人の卒園生を送り出し、地域の幼児教育と子育て支援に役立っている。本年も先輩が残してくれたますみ幼稚園の古きよき伝統を引き継ぎながらも全職員、心機一転して頑張る所存である。

園児たちは、広い園庭で自転車遊びやブランコ、滑り台遊びに夢中になり、笑顔いっぱい走り回っている。また春の草花を見つけて摘んだり、ダンゴ虫などに夢中の子も見られる。

先日のお面式では園児が元気に歌を歌い、楽しい手遊びをして新入園児を迎えた。また、誕生会では「チューリップ」や「ハッピーバースデー」を大きな声で歌い、インタビューや紙芝居を見てから、各室でおやつを食べながら楽しい時間を過ごした。

今年度は開園2年目の保育園との連携による交流活動として、出来たての温かい給食の提供や、早朝・夕方延長の預かり保育などを実施している。

東北生活文化大学高等学校

旧校名「三島学園女子高等学校」に入学した168名の卒業式が去る3月3日に行われ、東北女子職業学校創設以来101年に至った女子教育に幕を閉じた。4月8日には、男子113名を含めた322名の新入生を迎え、名実ともに全学年男女共学の東北生活文化大学高等学校が誕生した。

さて、平成16年度後半の高等学校の主な行事と活躍状況について報告する。先ず生徒達の活躍には目を見張るばかりである。昨年は新潟中越地震を始め台風・豪雨などの自然災害が国内外で多発し、多くの方が被害に遭われた。そこで、生徒会とJRCの生徒が中心となって、泉中央駅周辺での募金活動や学園祭でのチャリティバザー等を行い、そこで得た基金の中から100万円を見舞金として被災地へ送った。その他にも老人ホームや身体障害者養護施設に車椅子の寄贈。福祉施設への慰問活動。また、虹の丘町内会との交流を深めるべく連携しながら全校挙げて取り組んでいる「時の蘇生」柿の木プロジェクト～平和を想う日～の企画も4年目を迎えた。今年はイラクのパクダドで戦争阻止のため「人間の盾」として戦っているジャーナリストの志葉玲氏を招いて、イラクの現状と平和の尊さを学ぶことができた。

更に、女子ソフトボール部の全国選抜大会出場は、平成元年度ソフトテニス部団体が四国高松インターハイに出場して以来、実に15年ぶりの全国大会出場である。在校生、同窓生、教職員にとって今後に向けて奮起を促されるこの上ない喜びであり、歴史に残る記念すべき事であった。協賛金を広くお願いしたところ、学園の教職員や同窓生、在校生の保護者等、趣旨に賛同のご理解をいただき多くの善意が寄せられた。この選抜大会には、全国から32の強豪チームが参加し、優勝を争った。前日の開会式応援参加を兼ねて、生徒会や応援団、チアガール、教職員を含め総勢39名が上京した。本校は3月22日の1回戦で、2年連続8回出場の高松、岐阜県多治見西高と対戦。試合の前半は全国大会の雰囲気慣れぬままに6回までに8失点。最終回、猛反撃に転じ、4連続ヒットで4点を返したが、時すでに遅く4対8で惜しくも敗退し、初陣を飾ることは出来なかった。しかし初出場にも関わらず今回の大会で得た貴重な経験は、選手にとって大きな自信となり、次の大会に生かされることと思う。

学習進路面においては、1、2年からの学力アップを目指した補習、進学講習、進路ガイダンスやキャリア教育を数多く実施しており、その成果が本大学・短期大学部をはじめ、2年連続となる国立大学合格、県内や関東地区の大学、短大、専門学校等へ進学する生徒の増加となっている。

また、昨今の就職難にも関わらず、先生方の粘り強い指導のお陰で希望にそった就職先を決めるなど、進学同様その成果が徐々にではあるが現れてきている。このように学校改革が進むにつれて文武両面での活躍が、随所で見られるようになってきた。今後とも地域から信頼され「選ばれる学校」づくりに、教職員一同共通理解のもと、日々の教育実践を大切に邁進していきたい。

ますみ保育園

2年目に入る保育園では、0歳児から4歳児までのかわいらしい新入園児を迎え、62名でのスタートとなった。街中にありながら、裏手の大年寺山の山登りを楽しんだり、広瀬川の河川敷まで散歩に行ったりと環境の豊かさを感じている。また園の畑では、じゃがいも、オクラ、いちご等を栽培し、昨年とはまた違った体験、観察、収穫ができることを期待している。

近年子育て支援、家庭援助が保育園での大切な役割となっており、今年度幼稚園と連携を取りながら、地域の未就園児を招いての親子サークルを定期的実施する計画である。

訃報 本学園発展のためにご尽力くださった方々へ心からお悔み申し上げます。

中島 春次郎 【元高校・教諭】(平成17年1月16日逝去)

平井 信一郎 【元大学教務課・事務職員】(平成17年2月4日逝去)

関 直正 【元大学学生部・事務職員】(平成17年5月9日逝去)

齋藤 輝子 【学園理事・前同窓会会長
前(財)奨学香風会理事長】(平成17年5月21日逝去)

誌上 ギャラリー



「桜」

短大・生活文化学科 猪俣 美穂
平成16年度卒業

1年生で履修した染色に興味を持ち、卒業制作に着物特有の絵羽柄の浴衣を取り上げた。色々な技法の中でも多様なデザインと色の幅を表現できる手描き友禅染めを選び、模様に沿って全体と花びらに濃淡を付ける作業を施した。一反の白生地を裁ち、仮縫い、柄付け、染めの工程を経て最後に浴衣を製作した。絵羽柄は、模様が連なって見えるように縫い合わせることや仕上がるまで色の出具合が分かりにくい点など、難しさ故の楽しさと達成感があり、染色の奥深さを感じた。先生の指導のもと、卒業制作にふさわしい作品が完成し、思い入れの深いものとなった。 (本人談)

編集後記

編集後記を書いている際、書棚においてあった学園創立100周年記念式典のパンフレットがふと目に留まった。その沿革史をみていくと、明治から平成に至る一世紀の道のりは決して平坦なものばかりではなかったことが想像できる。一方、今回第4号を発行した学園報の歴史は僅か2年。全学での男女共学や専攻・コース新設等の改革を進めつつ更なる伝統を刻もうとする学園と共に、この広報誌も成長できればと編集担当者一同願っているところである。 (三島学園広報委員会)

学校法人 三島学園 学園報 第4号 平成17年6月1日発行 三島学園広報委員会編集

III 学校法人 三島学園 〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1-18-2 TEL.022-272-7511(代) FAX.022-272-7516
[URL] <http://www.mishima.ac.jp> [E-mail] hojin@mishima.ac.jp



古紙配合率100% 白色度70%
再生紙を使用しています



環境に優しい大豆油
インキを使用しています

印刷／笹氣出版印刷株式会社